

切花ケイトウを食害するオオタバコガの防除対策について

切花ケイトウは、深谷市川本地区を中心に栽培されています。赤・オレンジ・ピンク・黄色と花色が多様で、暑さに強く、夏の切花としては花持ちが良いため、仏花として8月のお盆と9月の彼岸での需要が高まります。

1 切花ケイトウの作型について

深谷市川本地区でのケイトウ栽培は、ビニールハウスで生産する7月盆作型と露地で栽培する8月盆作型、9月彼岸作型があります。出荷の中心は、8月盆と9月彼岸です。



写真：出荷前の切り花ケイトウ

2 栽培上の課題

8月盆と9月彼岸の作型は露地栽培のため、害虫の防除対策が必須です。害虫の被害例として、特に、オオタバコガやヨトウムシ類の幼虫による葉や新芽の食害が挙げられます。また、ケイトウの花冠は複雑な立体構造をしているため、薬液が花冠の奥までかかりにくく、幼虫が一度もぐり込んでしまうと、防除が難しくなってしまいます。



前翅長 19mm

写真：オオタバコガ成虫 (写真提供：HP埼玉の農作物病害虫写真集)

3 防除対策について

オオタバコガ・ヨトウムシ類の被害が特に確認されていた深谷市田中地区に実証ほを設置し、数種類の農薬をローテーション散布し

て防除の効果を確認しました。

ローテーション散布とは、作用機構分類（IRACコード）が異なる数種類の農薬を選定し、散布の度に作用機構が異なる農薬を使用するよう予め順番を決めておき、栽培期間中、その順番を繰り返して散布する方法です。そのため、害虫の薬剤耐性がつきにくくなります。

取組みの結果、薬剤散布期間中は、昨年と比較して、幼虫の食害は少なく、効果的な防除ができました。

4 オオタバコガの発生活長について

幼虫が花冠にもぐり込む前の害虫発生初期に、確実に防除することが重要となるため、オオタバコガの発生活長を確認しました。

深谷市田中地区と畠山地区の2か所の切花ケイトウ栽培ほ場に、発生予察用フェロモントラップを設置し、2週間ごとの成虫誘殺数を調査しました。その結

果、誘殺数はグラフのとおり推移しました。

今年の場合、7月中旬と8月下旬、また、田中地区のみ10月上旬に成虫の発生がピークになりました。防除時期としては、最初のピークである7月中旬と、9月彼岸作型への影響が大きい8月下旬が重要であることが分かりました。



